

—スタッフ紹介—

役 職	スタッフ名
病院長	山下 静也
副病院長 兼地域医療サービスセンター長 兼心臓センター長	永井 義幸
診療局長補佐 兼循環器内科部長	武田 吉弘
医 長	堂上 友紀
副医長	村木 良輔
副医長	尾崎 雄一
医 員	大野 壮史
医 員	藤原 敬太
医 員	河合 努
医 員	森下 瞬
医 員	笠原 卓

—概要—

当院は、救命救急センター、母子医療センター、感染症センターなどの高度医療センターが集積する三次救急医療センターである。それゆえ、当循環器内科では、循環器の知識のみならず、総合的な幅広い知識が要求され、各種の高度医療センターから紹介される、救急、重症、特殊病態例の診療を行うことが常となっている。

そのため、循環器内科スタッフは、冠虚血インターベンションの専門医であることは当然として、下肢虚血インターベンション、不整脈植込みデバイス留置、不整脈アブレーションなどの高度先進治療にも習熟し、日々研鑽を重ね、関西でも有数の施設に成長しつつある。

従って、これらの侵襲的インターベンションの件数は、年々増加しているが、侵襲的治療だけではなく、非侵襲的内科治療に関しても、多数の研究報告を行いつつ、近隣の病診連携医と研究会を開催し、交流をはかり、病診連携にも非常に力を入れて、診療にあたっている。

—実績—

心臓カテーテル検査	1,096 件
冠動脈カテーテル治療	433 件
急性冠症候群	165 件
急性心筋梗塞	127 件
ペースメーカー	47 件
植え込み型除細動器 (ICD)	7 件
両室ペーシング機能付き植込み型除細動器 (CRT)	9 件
下肢動脈カテーテル治療	49 件
心臓CT検査	652 件
経胸壁心臓エコー検査	7,192 件
経食道心臓エコー検査	59 件
心臓核医学検査	153 件
血管内超音波検査	409 件
血管内光干渉断層撮影	30 件

(2015/1/1～2015/12/31)

—今年度の成果と反省点—

- ・泉州救命救急センターとの完全統合後の三次救急の劇的な増加に適切に対応することができた(一般の循環器内科と比べ、心肺蘇生後、致死的不整脈併存、重症冠虚血、重症下肢虚血、急性大動脈解離などの、救急、且つ、重症例が、非常に多いが、専用カテーテル検査室が少ないにも関わらず、適切に対応することができた)。
- ・上記の救急重症疾患に対して、高度画像診断機器(320列と64列CT、3Tと1.5TのMRI、放射線アイソトープ)を多数保有している当院の利点を最大に生かし、速やかに診断し治療に結びつけることができた。
- ・泉州広域母子医療センターも併存しており、周産期肺塞栓、産褥性心筋症、産褥期心筋梗塞などの、稀な循環器疾患にも対応し、治療を行った。
- ・専用カテーテル検査室が少ないにも関わらず、効率的にカテーテル検査入院を行い、在院日数の短縮化を図った(これにより、長期入院に伴う高齢者の筋力低下などを、ある程度、予防することができた)。
- ・例年どおり、関西有数の冠動脈カテーテル・インターベンションの症例数も維持しつつ、下肢インターベンションの治療も積極的に行い、地域医療に貢献した。

- ・ペースメーカーの他、植込み型除細動器、心臓再同期ペースメーカーなどのデバイスにも習熟し、適切に植込みを行った。
- ・病診連携医から御要望が多かった、不整脈アブレーションの治療を開始し、急速に症例数を増加させ、地域医療に貢献することができた。
- ・例年どおり、国内、国外の学会に臨床研究に関する報告を多数行った。
- ・例年どおり、病診連携医が遭遇する可能性が高い、心不全や心房細動といった“Common Disease”(コモン・ディーズ)に関する勉強会を複数回行い、地域医療に貢献した。
- ・多数の院内コンサルテーションに、迅速に対応した。

—来年度への抱負—

幅広い臨床経験を生かし、学術的知見を深めるために、更に、臨床研究にも力を入れたい。

冠虚血インターベンション、下肢虚血インターベンション、植込みデバイス留置、不整脈アブレーションなどの侵襲的治療に対応するためには、専用カテーテル検査室が、ひとつしか使用できず、制限がかかっていたが、近日、新たな専用カテーテル検査室が増設されることで、より多くの患者さんの診療に役立つことができれば良いと考える。